

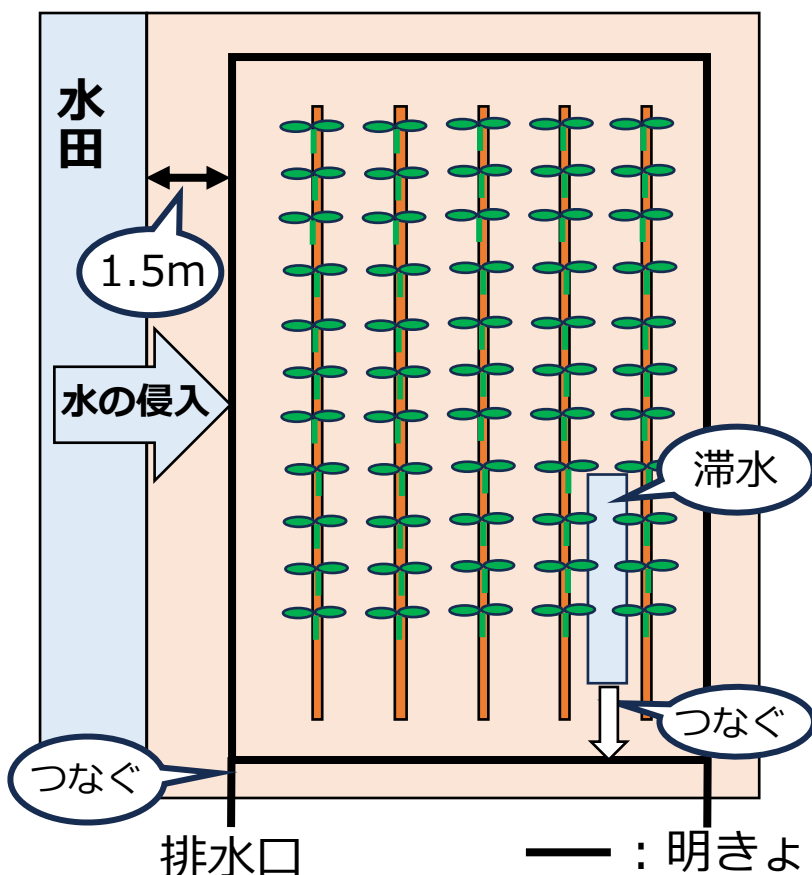
# 明きよの施工など春先の排水対策は大豆栽培において最も重要な作業です！！

### ★水田転換畑の排水対策におけるポイント★

水田転換畑は元々水田なので水が地下に抜けにくい

- ⇒ よって、地表水の排除が対策の基本
- ⇒ 周囲明きよや畝間を利用して地表水を速やかに排水させる対策が重要！

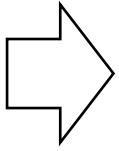
## 1 地表水の排除を意識した対策



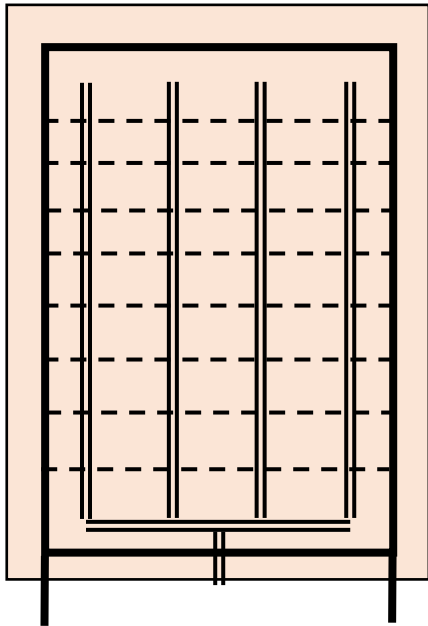
- 周囲明きよは確実に排水口につなげる。
- 隣接水田や用水路から侵入水がある場合は畦畔から明きよを1.5m以上離す。
- 可能であれば枕地も畝立てを行い、周囲明きよと畝間をつなぐ（滞水しやすい箇所は特に）。
- 排水口は明きよの底面より深くする。

## 2 地下排水対策

特に大区画ほ場では排水口までの距離が長くなるため、地表水の排水速度が遅くなる。



**本暗きよと補助暗きよ（弾丸暗きよ等）を  
組み合わせた地下排水が重要となります！**



＝：本暗きよ    - - - - -：補助暗きよ

—：明きよ

- ・本暗きよの機能状況を確認しておく。
- ・補助暗きよは本暗きよに交差するように施工し、2～5m間隔とする。  
排水性の悪いほ場では間隔を狭くし、本数を多くする。  
また、本暗きよの疎水材と交わる深さ（30～40cm）で施工する。

## 3 夏季干ばつ時のかん水と排水対策

- ・昨年上越地域では7月中ほとんど降雨がなく、干ばつ害が発生した。
- ・開花～着莢期（7月下旬～8月）の干ばつは落花・落莢を引き起こし、収量低下や成熟遅延・青立ちの要因となる。
- ・干ばつ対策としては暗きよ閉栓や明きよへの通水、畝間かん水がある。かん水を実施する場合にはかん水時の滞水による湿害を防ぐために事前の十分な排水対策が必要となる。